

東北地方 1か月予報

(6月1日から6月30日までの天候見通し)

平成14年5月31日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとあります。

前半天気は概ね周期的に変化し、平年に比べ晴れの日が多いですが、後半は前線やオホーツク海高気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いでしょう。降水量は平年並の見込みです。日照時間は平年並が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目と3～4週目は平年並か高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月 1日(土)～ 6月30日(日)

1週目 : 6月 1日(土)～ 6月 7日(金)

2週目 : 6月 8日(土)～ 6月14日(金)

3～4週目 : 6月15日(土)～ 6月28日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は6月7日

3か月予報：6月20日(木)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	17.3	171.5	148.2	16.2	17.0	17.8
新庄	18.7	131.0	152.7	17.5	18.4	19.2
若松	19.8	115.7	157.9	18.7	19.6	20.4
深浦	17.2	109.4	179.6	15.9	16.7	17.9
青森	17.0	82.2	180.7	15.8	16.6	17.6
むつ	15.6	109.0	162.6	14.5	15.3	16.1
八戸	16.1	99.2	168.8	15.2	15.9	16.6
秋田	18.8	127.5	178.0	17.4	18.4	19.5
盛岡	18.2	114.9	151.7	16.9	17.9	18.7
宮古	16.0	117.3	140.4	15.1	15.8	16.5
酒田	19.3	128.1	175.9	18.1	19.0	19.9
山形	19.5	102.6	153.8	18.5	19.4	20.0
仙台	18.3	137.9	127.9	17.4	18.0	18.7
石巻	17.7	111.6	145.6	16.6	17.3	18.2
福島	19.9	118.1	130.1	19.1	19.8	20.2
白河	18.4	167.6	121.9	17.6	18.2	18.8
小名浜	18.3	149.8	138.4	17.3	18.0	18.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.2	82~118	95~106
東北日本海側	-0.5~+0.2	71~105	96~107
東北太平洋側	-0.5~+0.2	88~111	90~108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.6~+0.5	-0.5~+0.2
東北日本海側	-0.6~+0.5	-0.6~+0.3	-0.5~+0.3
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.7~+0.7	-0.5~+0.3

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年5月31日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(6月1日～6月30日)：

前半天気は概ね周期的に変化し、平年に比べ晴れの日が多いですが、後半は前線やオホーツク海高気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(6月1日～6月7日)：

期間の初めは気圧の谷の影響で天気のくずれる所がありますが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月8日～6月14日)：

天気は概ね周期的に変化するでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3～4週目(6月15日～6月28日)：

前線やオホーツク海高気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

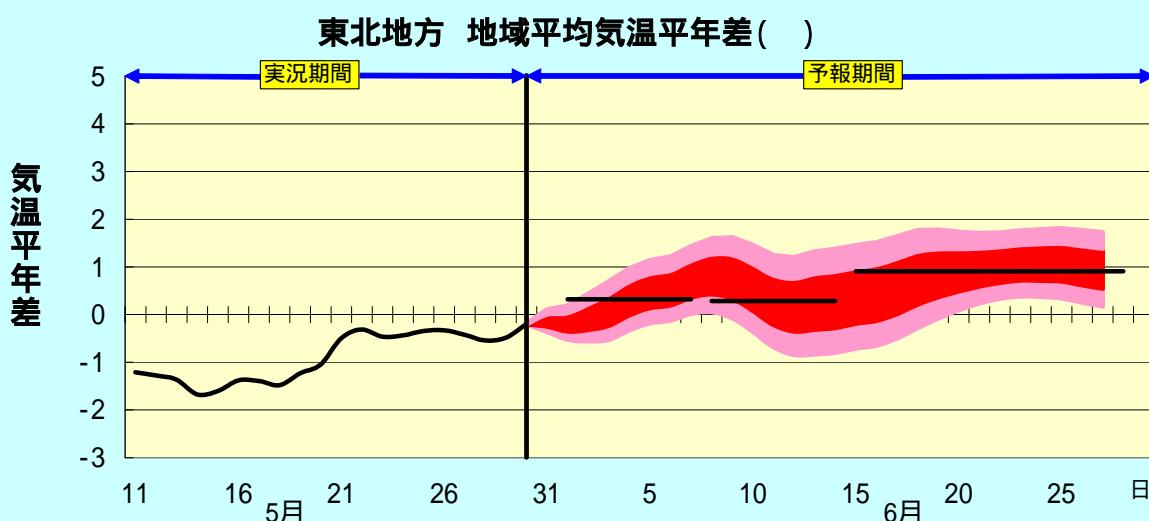
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	13.4日	4.1日	3.4日	5.9日
東北太平洋側	11.4日	3.7日	2.9日	4.8日

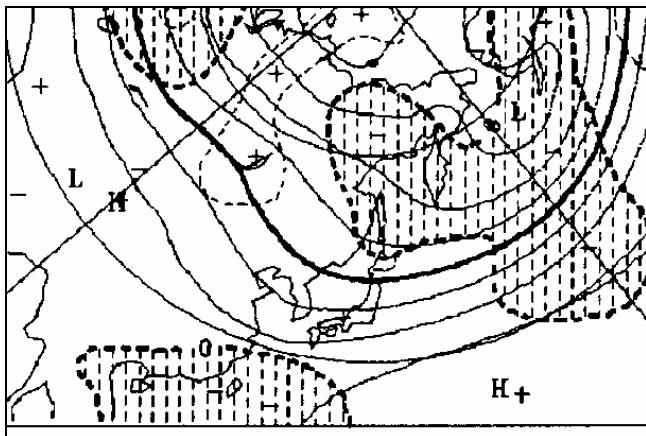
2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目と2週目は「平年並」、3～4週目は「高い」を予測している。予報は、その他の資料から2週目、3～4週目を「平年並か高い」とする他は数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



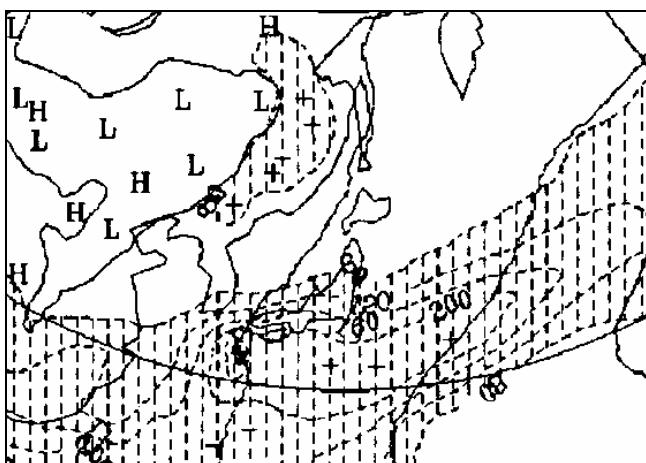
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、オホーツク海を中心とする負偏差域が北海道にかかり、南西諸島も負偏差となるが、その他の地方は正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越しており、天気は概ね周期変化する見込み。

週別（図略）では、1週目に日本付近は広く負偏差に覆われるが、日本の東が相対的な谷場となるため天気の崩れは小さい。2週目は、北日本以北が負偏差となって、寒気の影響を受ける可能性がある。3~4週目は日本付近が広く正偏差に覆われる。



地上気圧と降水量

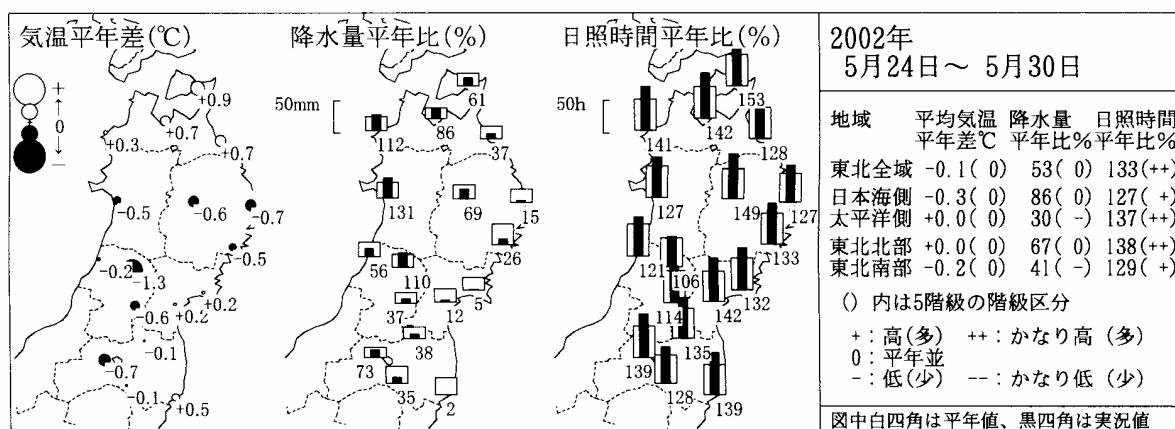
月平均で見ると、東海上から太平洋高気圧が日本の南に張り出しが、まとまった帯状の降水域が日本の南岸にかかり、本州以南は降水域が広がる。

週別（図略）では、2週目までまとまった帯状の降水域は日本の南海上だが、3~4週目は本州付近まで北上する。

4. 最近1週間（5月24日～5月30日）の天候の経過

この期間、高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、前半は上空の強い寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雨や雷雨となるところがあった。

平均気温は、東北地方で平年差-0.1と平年並だった。降水量は、東北日本海側で平年比86%と平年並、東北太平洋側で平年比30%と少なかった。日照時間は、東北日本海側で平年比127%と多く、東北太平洋側で平年比137%とかなり多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)